

令和7年度 佐藤小学校 学校評価報告書

1 学校教育目標「かがやく子～自分らしく、仲間と共に～」の具現に向けた取り組み

自ら学ぶ子～確かな学力～「主体的に学ぶ子」「かかわりの中で学ぶ子」を育てます。

→・授業改善 ・学習環境づくり

認め合う子～豊かな心～「自他のよさに気づき、認めえる子」「互いに支え合える子」を育てます。

→・思いやりの心、豊かな心の育成 ・子供理解の生徒指導

高め合う子～健やかな体～「目標に向かって粘り強く取り組む子」「自他の命を大切にしている子」

を育てます。

→・主体的に運動できる環境 ・命を大切にするための指導の推進

2 自己評価

目指す子供の姿			職員	児童	保護者
かがやく子	子供たちは、「自分らしさ」を学校教育活動の様々な場面で発揮している。	A	25.0	40.3	26.0
		B	66.7	40.7	59.0
		C	8.3	7.8	10.0
		D	0.0	2.2	2.0
		E	0.0	9.0	3.0
自ら学ぶ子	子供たちは、主体的に学ぶことができている。	A	16.7	48.1	18.0
		B	75.0	37.7	63.0
		C	8.3	6.7	14.0
		D	0.0	3.4	2.0
		E	0.0	4.1	2.0
	子供たちは、子供同士でかかわり合う中で学ぶことができている。	A	25.0	67.2	38.0
		B	70.8	24.3	56.0
		C	4.2	4.9	5.0
		D	0.0	1.5	1.0
		E	0.0	2.2	1.0
	子供たちは、地域の方々をはじめ、周りの人とかかわり合う中で学ぶことができている。	A	0.0	47.0	22.0
		B	75.0	36.2	56.0
		C	25.0	7.8	17.0
		D	0.0	3.4	2.0
		E	0.0	5.6	2.0
認め合う子	子供たちは、子供たちは、自分のよさに気付いている。	A	8.3	59.7	18.0
		B	83.3	22.4	58.0
		C	8.3	9.0	17.0
		D	0.0	3.0	3.0
		E	0.0	6.0	4.0
	子供たちは、相手のよさに気付く、認め合うことができている。	A	33.3	60.8	29.0
		B	58.3	28.7	60.0
		C	8.3	4.5	7.0
		D	0.0	1.5	1.0
		E	0.0	4.5	3.0
	子供たちは、互いに支え合うことができている。	A	25.0	64.3	29.0
		B	66.7	28.6	60.0
		C	8.3	2.0	6.0
		D	0.0	0.3	1.0
		E	0.0	4.7	4.0
その他	子供たちは、自分から進んで挨拶をしている。	A	8.3	53.7	28.0
		B	41.7	31.7	42.0
		C	37.5	7.8	26.0
		D	12.5	3.7	4.0
		E	0.0	3.0	1.0
高め合う子	子供たちは、体育的行事や体育科の学習で目標を持っている。	A	16.7	62.3	24.0
		B	79.2	27.6	45.0
		C	4.2	6.7	23.0
		D	0.0	1.1	5.0
		E	0.0	2.2	3.0
	子供たちは、目標に向かって粘り強く取り組んでいる。	A	8.3	50.4	14.0
		B	79.2	34.3	59.0
		C	12.5	9.7	20.0
		D	0.0	2.2	4.0
		E	0.0	3.4	3.0

目指す子供の姿			職員	児童	保護者
高め合う子	子供たちは、自分の命を大切にしている。	A	20.8	82.8	59.0
		B	75.0	10.4	38.0
		C	4.2	2.6	1.0
		D	0.0	1.5	0.0
		E	0.0	2.6	1.0
	子供たちは、自分以外の命を大切にしている。	A	12.5	79.1	57.0
		B	66.7	16.0	38.0
		C	20.8	0.7	2.0
		D	0.0	1.1	0.0
		E	0.0	3.0	2.0
キャリア教育	子供たちは、夢や目標を持っている。	A	16.7	75.4	30.0
		B	79.2	13.4	43.0
		C	0.0	7.8	21.0
		D	0.0	2.6	3.0
		E	4.2	4.9	2.0
	子供たちは、学習や生活の中で自分の成長を感じている。	A	20.8	60.1	26.0
		B	66.7	23.9	59.0
		C	8.3	9.7	11.0
		D	0.0	2.6	2.0
		E	4.2	3.7	2.0
開かれた学校づくり	学校は、地域・家庭と積極的に連携していて相談しやすい。	A	20.8		22.0
		B	66.7		57.0
		C	12.5		15.0
		D	0.0		2.0
		E	0.0		5.0
	学校は、便りやホームページなどで情報を発信している。	A	58.3		41.0
		B	41.7		52.0
		C	0.0		6.0
		D	0.0		0.0
		E	0.0		1.0
	保護者は、佐藤小のコミュニティ・スクールとしての取り組みを知っている。	A	4.2		15.0
		B	62.5		38.0
		C	33.3		27.0
		D	0.0		3.0
		E	0.0		16.0
いじめ防止・対応	学校支援ボランティアの取り組みは、学校と家庭、地域のつながりを深め、子供たちの豊かな成長を支えている。	A	33.3	60.1	26.0
		B	66.7	30.2	58.0
		C	0.0	4.9	9.0
		D	0.0	1.1	0.0
		E	0.0	3.7	7.0
	学校は、「浜松市立佐藤小学校いじめ防止基本方針」にもとづき、いじめの未然防止に努めている。	A	58.3	68.3	29.0
		B	41.7	18.7	58.0
		C	0.0	6.0	7.0
		D	0.0	2.2	0.0
		E	0.0	3.4	5.0
学校は、「浜松市立佐藤小学校いじめ防止基本方針」にもとづき、いじめの早期発見・対処に努めている。	A	66.7	76.1	27.0	
	B	33.3	14.2	58.0	
	C	0.0	2.6	6.0	
	D	0.0	2.2	1.0	
	E	0.0	4.9	8.0	

3 分析・考察

【自ら学ぶ子】

子供たちは、「友達とかかわり合う中で学ぶことができている」と感じている。

(A:67.2% B:24.3%)

一方で、教師は、Bの割合が高い。(A:25.0% B:70.8%)

ペアやグループ活動などを通して、子供たちは友達と学びを進めている実感を持っている。また、授業内に子供たちの間で自然と対話が生まれる場面が生まれてきた。

本校では、R7年度より、子供たちが「見通しを持つ→行動する・学ぶ→振り返る」のサイクルを発達段階に合わせて自分で回しながら学習することを目指し、授業改善に取り組んできた。その中で、子供の学びが深まるためには、対話が重要な役割を果たしていることがより明確になった。

【認め合う子】

子供たちは、「相手のよさに気づき、認め合うことができている」と感じている。

(A:60.8% B:28.7%)

「自分のよさに気付いている」子の割合が低い。(児童 A:59.7% 教師 A:33.3%)

全学級で、学級の時間や行事の後に友達のがんばりなどを伝え合う「かがやき発見」の時間をとっている。また、道徳科の学習や朝会での校長の話や身体測定時の養護教諭の話を通して多様性について子供たちと考えてきたことで子供たちの意識が高まってきている。

自分の長所や短所について見つめる機会を増やすことで、友達から言われたからだけでなく、自分のよさを実感することができるのではないかな。

【高め合う子】

「子供たちは、体育的行事や体育科の学習で目標を持っている。」(A:62.3% B:27.6%)

「子供たちは、目標に向かって粘り強く取り組んでいる。」(児童 A:50.4% 教師 A:8.3%)

子供たちは、さっそく運動会や体育科の学習で自分の目標を持って取り組んでいる。キャリアパスポートや体育科のワークシート等を活用して目標を意識する場を設定することで、子供たちは意欲的に活動することができた。

今後は、目標に向かっていく意欲をどのように継続させるか、うまくいかないときにどうしたらよいか考えて再挑戦することができる子を育てるにはどのような支援が必要か考えたい。

4 学校関係者評価（学校運営協議会にて）

- ・「対話」することで人とかがわりを持てる子になっていく。子供たちが「対話したくなる授業」を目指してほしい。
- ・友達と同じ考えだとしても、それを自分の言葉で伝えることが大切。子供たちは対話を通して、反対されること・共感されることの両方を経験していく。大人になっても共感されると心強く感じる。そのような経験を積み重ねる中で、子供たちの心も育っていく。学校はもちろん、家庭でも「会話」「対話」を大切にしてほしい。
- ・「自分のよさ」を見つけるのは大人でも難しい。一人では「よさ」に気づきにくい。みんなの役に立てたとき、それが本人の中で「自分のよさ」として認識されるのでは。「自分っていいじゃん。」と気付く場を学校生活の中でつくってほしい。

- ・いろいろな生き方をしている地域の人と学校・子供たちをつなぐ力になれたらと思っている。
- ・「キャリア教育」という言葉だけ聞くと、難しそうな印象を受ける。
- ・いじめ早期発見・対処について、学校職員と児童・保護者の間で評価に開きがあるため、改善の余地がある。

5 今後の改善方策

【自ら学ぶ子】

- ・校内研修を通して、「学びが深まる対話」の質を上げるための教師の役割を追究していく。
- ・「見通しを持つ→行動する・学ぶ→振り返る」のサイクルを自分で回しながら学習している姿とはどのような姿かを明確にし、教師と子供たちとで共有して取り組んでいく。

【認め合う子】

- ・学校教育全体を通して、教師・児童のキャリアの目（芽）を育てていく。授業や行事などを通して、自分の成長を振り返る場を設定する。
- ・「キャリア教育」について、具体的な子供立ちの姿と結び付けて説明していくことで、教師・児童はもちろん、家庭の理解を深められるようにする。来年度も今年度に引き続き、キャリアの力が教育活動とどのようにつながるのかを毎月の学校だより等で発信していく。
- ・コミュニケーションの第一歩である挨拶を大切にする。発達段階に合わせて目標を設定し、生活のめあてとして意識したり、児童会活動などを通して挨拶について考え実践する場をつくる。

【高め合う子】

- ・さとっこ運動会や体育科の学習を通して、友達と競い合ったり励まし合ったりして目標を達成する喜びを味わう場をつくる。
- ・さとっこランニングウィークや縄跳びカード、委員会のイベントなどを通して、運動を生活の中に取り込み、進んで運動する子を育てる。努力を続けている児童について、掲示や全校放送などで称揚する。

【いじめ防止・対応】

- ・年度初めに、児童・保護者に「いじめは許されないことであること」「一人一人を大切にする佐藤小学校にしていきたいこと」を伝えると共に、保護者には「佐藤小いじめ防止基本方針」について説明する場を設ける。
- ・いじめ防止に関する年間指導計画に沿って計画的に指導していく。
- ・いじめ防止基本方針に沿って、迅速な対応に努めると共に、関係保護者に丁寧の説明していく。
- ・人はそれぞれ違うこと、違うからこそおもしろいという多様性を尊重できる働きかけを積極的に行う。
- ・家庭と連携しながら、子供の様子を共有していく。